

## 心のかたち ～思春期の自画像を描こう～

本題材で育成する資質・能力

思考力・判断力・表現力，主体的に学ぶ力，  
他者とかかわる力，自己形成力

## 題材について

## ○題材観

本題材は中学校学習指導要領美術の第2・3学年，特にA表現(1)ア「対象を深く見つめ感じ取ったこと，考えたこと，夢，想像や感情などの心の世界などを基に，主題を生み出すこと。」(3)ア「材料や用具の特性を生かし，自分の表現意図に合う新たな表現方法を工夫するなどして創造的に表現すること。」，B鑑賞(1)ア「造形的なよさや美しさ，作者の心情や意図と創造的な表現の工夫，目的や機能との調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り見方を深め，作品などに対する自分の価値意識をもって批評し合うなどして，美意識を高め幅広く味わうこと。」より設定している。本題材は，鑑賞活動からの表現領域への接続性・発展性を意図している。第1時の鑑賞活動の中で，対象の見方や感じ方を深め，その中で見つけた表現の工夫を活用して作品を制作することを通して，豊かな表現活動へと発展させていくことができるものとする。鑑賞作品は，興福寺阿修羅立像とする。興福寺阿修羅立像は，憂いを含んだ少年の面貌で，三面三様の面貌に少年の成長過程を想像する人もいれば，悟りと慈悲と忿怒という仏に備わる仏性を見出す人もいるなど，多種多様に受け取れる表情をしている。興福寺阿修羅立像にみられる様々な感情をもたらす表情の表現の工夫は，喜怒哀楽の入り混じる思春期の自己の内面を自画像で描く表現活動に活用できると考える。仏像は表情，持ち物，ポーズの形が一つ一つ意味を持っており，仏師の意図や感情について多様な視点から作品に対する考えを深めることができる鑑賞作品である。根拠を示して自分の価値意識を批評し合うことを通して作品のよさや工夫を見つけ，思いや願いを形に表現する見方を一層広げるとともに，自分の内面に目を向け，思いを形にするための表現方法を工夫し，表現する力を高めていくことができる題材である。

## ○生徒観

本学年の生徒は，制作にまじめに取り組む生徒が多く，学校生活も全体的に落ち着いている。鑑賞においても，互いに意見を出し合うことには，比較的抵抗なくできる生徒が多い。アンケート調査では，以下の表のような結果であった。

「美術鑑賞をすることが好きだ」	肯定的な 回答の割合	65%
「作品鑑賞の時，自分と違った思いや感想を仲間とさらに深く話し合うことができる」		74%
「美術鑑賞の時に技法や表現の工夫に興味を持ったことがある」	否定的な 回答の割合	65%
「美術鑑賞の時に登場人物の心情や行動に興味を持ったことがある」		53%
「仏像作品を鑑賞したことがある」		64%
「仏像のよさや美しさを自分なりの根拠をもって説明できる」		74%

この調査結果から，作品鑑賞や話し合い活動に意欲的である一方で，明確に視点を持って鑑賞することや根拠をもとに説明することが十分ではないことが分かった。根拠を持って説明し合う活動を通して，自分の価値意識をもった鑑賞の力を高めたい。表現では，1年生でスケッチや静物画，2年生で錯視図，3年生で構想画と継続的に絵に表す活動をしている。絵を描くことが好きな生徒が比較的多いが，造形的な特徴などを基にしてイメージをとらえ，絵を描いている生徒は少ない。そこで「思春

期の自画像」制作では、デッサンを基本としながら、今の自分の顔をじっくり観察させて、造形的な特徴などを基にして、自己の内面に迫るような表現力を高めたい。

### ○指導観

今回の題材では、鑑賞で発見した造形的な特徴などの表現の工夫を自分の表現活動に活用していく。鑑賞活動で、興福寺阿修羅立像の表情から感情を読み取り、根拠を持って批評し合う中で、感情と関連付けた造形的な特徴を発見する。その後、自己の内面の感情と造形的な特徴（表情やポーズ、比率や角度、陰影やタッチ）などの表現の工夫を関連付けた「思春期の自画像」を制作する。完成した「思春期の自画像」を鑑賞し、思春期の思いと表現の工夫を述べた未来の自分に向けた手紙を書いていく。

言語活動を設定し、視点を持たせたグループでの話し合い活動を重ねることで、自分の感じたことや考えを根拠を示して明確に表現させ、自分の中に新しい価値意識をつくりださせたいと考える。

## 題材の目標

- (1) 仏像の造形的な特徴に関心を持ち、表現の工夫を活用した「思春期の自画像」制作に主体的に取り組む。
- (2) 表情やポーズを工夫して、自己の内面表現に迫る自画像の構図を考えることができる。
- (3) 明暗表現を工夫して、自己の内面表現に迫る自画像を制作することができる。
- (4) 「興福寺阿修羅立像」を鑑賞し、作者の意図や感情を根拠を示しながら批評し合うことで、表現の工夫を見つけることができる。
- (5) 「思春期の自画像」を鑑賞し、思春期の思いと表現の工夫を述べた未来に向けての手紙を書くことができる。

## 題材の評価規準

ア 関心・意欲・態度	イ 発想や構想の能力	ウ 創造的な技能	エ 鑑賞の能力
① 内面性を顔の表情やポーズ、比率や角度、陰影やタッチなどによって表すことに関心をもち、描画材料や表現方法の特性を生かして表現しようとしている。(表現) ② 仏像の特徴に関心をもち、主体的に日本の美術文化を理解しようとしている。(鑑賞)	① 自己の内面性を基に想像力を働かせ、主題を明確にしながら効果を生かし、表現方法、描画材料の使い方を考え、制作の構想を練っている。	① 描画材料の特性を生かし、自分の表現意図に合う新たな表現方法を工夫するなどして創造的に表現している。	① 造形的なよさや美しさ、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫を感じ取り見方を深め、作品などに対する自分の価値意識をもって批評し合うなどして、美意識を高め幅広く味わっている。 ② 自画像作品から、作者の思いや表現の工夫などを感じ取り、自分の価値意識をもって味わっている。

## 資質・能力と評価の観点とのかかわり

本校の育てようとする資質・能力			評価の観点			
			関	発	技	鑑
知識			○			○
スキル	思考力・判断力・表現力	思		○	○	○
意欲態度	主体的に学ぶ力	主	○	○	○	○
価値観倫理観	他者とかかわる力	他	○			○

社会貢献力	社	①地域のよりよい社会のために、何をすべきかを考え実行しようとする力				
自己形成力	自	①前向きにチャレンジし、より自律・自立した人間になろうとする力 ②自信を持つ力	○		○	○

## I 学習内容とII学習活動, III題材として育てたい資質・能力のつながり

I 興福寺阿修羅立像を鑑賞し、作者の意図や感情と表現の工夫を関連付けて考え、II 理由を根拠を示しながら批評し合うことを通して、自らの自画像制作に活用して、自分の思いを表現方法を工夫して表す力を養う。

## 題材の終末におけるパフォーマンス評価

パフォーマンス課題	評価基準
<p>自己の内面を見つめた「思春期の自画像」を描きなさい。</p> <p>「思春期の自画像」を鑑賞し、思春期の思いと表現の工夫を述べた未来の自分に向けた手紙を書きなさい。</p>	<p><b>A</b> 自分の感情、特技、夢などが語られていて、感情と形（構図や比率・角度）色彩（陰影やタッチ）を関連付けて明確に表現することができる。</p>
	<p><b>B</b> 自分の感情、特技、夢などが語られていて、感情と形（構図や比率・角度）色彩（陰影やタッチ）の関連付けが十分ではないが、表現している。</p>
	<p><b>C</b> 自分の感情、特技、夢などが語られず、感情と形（構図や比率・角度）色彩（陰影やタッチ）を関連付けずに表現している。</p>

## 指導と評価の計画

時	学習過程	学習内容	評 価				評価規準 (評価方法)	◇資質・能力育成場面 【資質・能力】 ◆資質・能力評価場面 【資質・能力】 (評価方法)
			関	発	技	鑑		
1	課題の設定	○鑑賞活動から表現の工夫を見つける。 ・阿修羅立像を視点を決めて鑑賞し、自分の考えや感じたことを、根拠を示しながら、批評し合う。 ・阿修羅立像の造形的特徴から仏師の意図や感情を関連付けた表現の工夫を見つける。	○			◎	ア-② (振り返りシート) エ-① (行動観察, ワークシート)	◇自分なりに課題に対して見通しを持ち、考えをワークシートへまとめる。【思-①】
	情報の収集	○仏像の表現様式を学習し、根拠を考える。 ・地域や歴史性 ・物語性や超人性 ・仏師の意図や感情 ・展示場所 <b>【本時】</b>				○	エ-① (行動観察, ワークシート)	◇情報を収集して、根拠を示しながら、自分の考えをワークシートへまとめて、批評し合うことができる。 【思-③】 【他-②】
2	整理・分析	○人物の内面表現に迫るための表情やポーズに着目し、自己の内面を表すための構図づくりに生かす。 ・表情やポーズ ・比率や角度		◎			イ-① (机間指導, ワークシート, 生徒写真)	◇自らの課題を解決しようと作品にまとめる。【主-①】
34	創造・表現 まとめ	○思春期の内面を描く自画像制作をする。 ・比率や角度 ・陰影やタッチ			○		ウ-① (机間指導, 作品)	◆【思-①②③④】 (作品) ◆【主-①, 自-①】 (行動観察)
567	実行	○顔の表情と内面性を考えながら明暗表現を使って、自画像制作をする。 ・陰影やタッチ ・立体感や質感			◎		ウ-① (机間指導, 作品)	◆【思-①②③④】 (作品) ◆【主-①, 自-①】 (行動観察)

8	振り返り	○鑑賞活動 ・内面に迫った自画像制作ができたのか10年後の自分に向けての手紙を書き、話し合う。	○	◎	ア一① (行動観察, 机間指導) エー① エー② (机間指導, 鑑賞文)	◆【思一①②③④】 (手紙) ◆【主一①, 自一②】 (手紙, 行動観察)
---	------	--	---	---	---	--

## 本時の学習

### (1) 本時の目標

「興福寺阿修羅立像」を鑑賞し、作者の意図や感情を根拠を示しながら批評し合うことで、感情と関連付けた表現の工夫を見つけることができる。

### (2) 準備物

○教師: パーソナルコンピュータ, TV モニター(プロジェクタ, スクリーン), 写真画像(仏像: 天部, 興福寺阿修羅立像), ワークシート

○生徒: 教科書, 資料集

### (3) 学習展開 (1 限目/8 限目)

課題の設定

情報の収集

	学 習 活 動	指導上の留意点	評価規準 (評価方法) 【資質・能力の評価 価】
導入 (7分)	○興福寺阿修羅立像の写真を鑑賞する。	○興福寺阿修羅立像写真を提示する。 ○興福寺阿修羅立像の造形的な特徴を発表させ、ワークシートに記入させる。	
<p>【本時のめあて】 「興福寺阿修羅立像」を鑑賞し、作者の意図や感情を根拠を示しながら批評し合うことで、感情と関連付けた表現の工夫を見つけることができる。</p>			
展開 (40分)	<p>○阿修羅像の写真2枚を比較する。</p> <p>○阿修羅像の表情から、感情を推測し、想像できる言葉を考える。 北野天神縁起の阿修羅…怒っている興福寺阿修羅立像…左の顔…悔しい, 憎い, 企む。正面の顔…悲しい, 無表情。右の顔…苦しい, 悩む</p> <p>○興福寺阿修羅立像の表情を読む。 ジグソー班になって、それぞれの内容にそって意見をまとめる。 (J)…じっくり考える)</p> <p>○自班に戻り、それぞれの根拠を伝え合う。 (H)…はっきり表現する) (K)…くり返し挑戦する)</p> <p>○班ごとに興福寺阿修羅立像の表現の工夫と感情の関連付けについて話し合い、根拠を持ってまとめて、発表する。</p>	<p>○阿修羅像写真を提示する。(北野天神縁起絵巻, 興福寺阿修羅立像)</p> <p>○阿修羅は古代インドの戦いの神であることは伝える。</p> <p>○どうして他の阿修羅像と印象が違うのか考えさせる。</p> <p>○次の4点の内容からジグソー学習を行う。</p> <p>① 阿修羅の物語性から、どんな感情なのか表情を読む。</p> <p>② 阿修羅立像の作者の意図から、どんな感情なのか表情を読む。</p> <p>③ 阿修羅立像の3面の表情の成長過程から、どんな感情なのか表情を読む。</p> <p>④ 現代の写真家が撮影した光の当たり方を変えた陰影の違う2枚の写真を見比べて、どんな感情なのか表情を読む。</p> <p>○ワークシートに記入させ、書いた根拠を発表し合う。</p> <p>○班員は、メモをとって発表者の意見を真剣に聞く。</p> <p>○各班で、意見をまとめて発表させる。</p>	<p>エー① 造形的なよさや美しさ、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫を感じ取っている。 (行動観察・ワークシート)</p> <p>エー① 見方を深め、作品などに対する自分の価値意識をもって批評し合うなどして、美意識を高め幅広く味わっている。 (行動観察・ワークシート)</p>

<p>まとめ (3分)</p>	<p>○興福寺阿修羅立像の表現の工夫と感情の関連付けについて考えたことを振り返る。 ○次回の予告を聞く。</p>	<p>○自分の素直な感想を書くように伝える。 ○次回から自画像制作を行うことを説明し、この授業での学びを生かすことを伝える。</p>	<p>ア一② 仏像の特徴に関心をもち、主体的に日本の美術文化を理解しようとしている。(振り返りシート)</p>
---------------------	--	--	---